

医療コンフリクトマネジメント研修会に参加して

国立病院機構高知病院 大串文隆

平成 23 年 12 月 24 日、25 日に高知市総合あんしんセンターで開催された研修会に参加しました。医療メディエーションについては、以前より興味を持っておりましたが具体的内容については全く理解できていませんでした。そこで、愛媛県医師会会長の久野先生を通じて日本医療メディエーター四国支部代表の今川先生を紹介していただきチームみかんのメンバーによるロールプレイを含めた講演を高知病院で何度か行っていただきました。

医療者側と患者側の間に中立的立場で介入するメディエーターの存在は非常に意味あることと理解しましたし、メディエーションマインドは医療の世界のみならず一般社会においても必要なこととも感じました。メディエーションについてより理解を深めるために今回の医療コンフリクトマネジメント研修会に参加させていただきました。

クリスマスにもかかわらず、たくさんの方が集まり高知でのメディエーションに対する意識の高さを感じました。参加して聞くと行うとは大違いで、チームみかんの講演を受けたときにはわかったような気になっておりましたが、いざロールプレイ演習を行ってみると言葉の選び方から相手に対する姿勢まで非常に多くのことに注意する必要があることを実感しました。実際に行ってみて、相手の話をじっくり聞いていくことができず、自分の意見をすぐに話そうとしていることに気付き、話を聞くという非常に簡単と思えることでさえ難しいことであると気づきましたし、また、この聞くということが非常に重要であるとも感じました。

人が生きていく社会には当然コンフリクトを抱えています。特に医療の現場はコンフリクトにあふれており、対立する立場の人の中に立ち中立的な第三者の立場で双方を支援し両者の考えの違いの修復や改善を目指す医療メディエーターの役割は重要であり、このようなマインドを多くの方が身につけることでよりよい医療が展開できると思います。2 日間の研修ではありましたが非常の多くのことを学ぶことができ、他者とのコミュニケーションに対する意識が変わってきたと感じています。